

付着生物ラーバ情報

キヌマトイガイとミネフジツボのラーバが出現しました

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは奥内沖、久栗坂沖でともに1.7個体/m³、川内沖で2.3個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称: カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは奥内沖で80.0個体/m³、久栗坂沖で32.8個体/m³、野辺地沖、川内沖でともに19.5個体/m³見られました (表1)。

(3) その他

キヌマトイガイのラーバが川内沖で2.3個体/m³見られました。また、ミネフジツボの付着直前のラーバが久栗坂沖で0.6個体/m³、川内沖で1.6個体/m³見られました (表1)。

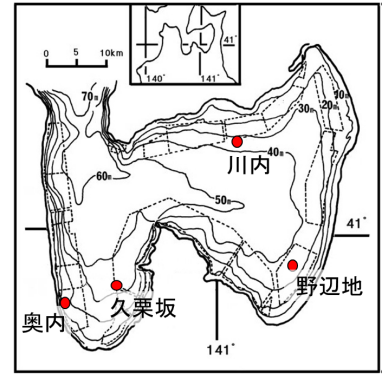


図1 付着生物ラーバの調査地点

表1 ラーバの出現状況 単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	ミネフジツボ
奥内沖	R7.1.5	1.7	0.0	80.0	0.0
久栗坂沖	R7.1.6	1.7	0.0	32.8	0.6
野辺地沖	R7.1.6	0.0	0.0	19.5	0.0
川内沖	R7.1.6	2.3	2.3	19.5	1.6

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層水温は西湾で8~11℃台、東湾で5~8℃台となっています。

10月以降のラーバ累積出現数は、奥内沖で

17.6個体/m³、久栗坂沖で10.2個体

/m³、野辺地沖で10.9個体/m³と西

湾では前回からさらに増加しており、

付着数が多くなる目安である

5.0個体/m³より多い状況です。ラー

バが多い海域ではユウレイボヤが大量

付着し、出荷時期に作業効率が低下

する可能性があります。

(2) ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、秋か

ら冬生まれのラーバはほとんど付着しないことが分かっています。

(3) その他

キヌマトイガイのラーバは今後増加し、ミネフジツボの付着直前の

ラーバはこれから出現のピークに向かう見込みです。

3 へい死が続いている養殖施設管理の注意点

ホタテガイの調子が悪く、へい死が続いている場合、生死確認や

ネット移動など貝に負荷をかけることにより、さらに異常貝が増

え、へい死する危険性があるので、養殖施設を動かさないようにし

ましょう (図3)。

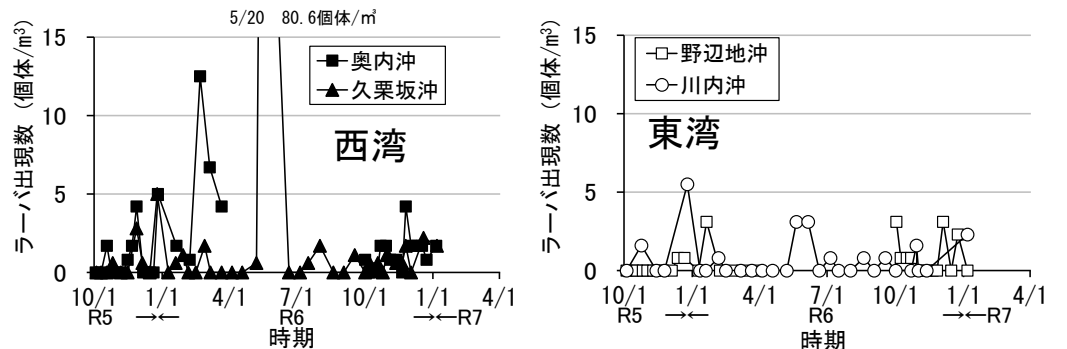


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和5年10月~令和7年1月)
・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

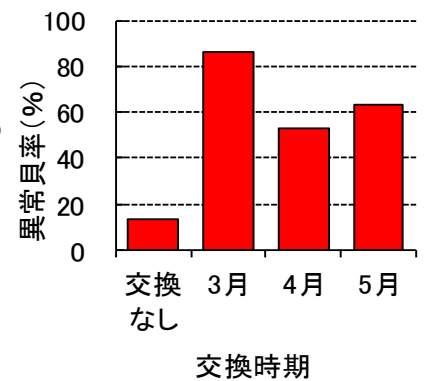


図3 半成貝のネット交換によるホタテガイの異常貝率 (西湾で平成29年6月測定)

